

三田尻中関港 <Port of Mitajirinkanoseki>

■港格／重要港湾
■港湾管理者／山口県
■指定年月日／昭和34年6月



山口県の中央部に位置する三田尻中関港は、天然の良港として古くから栄えてきました。特に遠浅海岸の開削による塩田が拓かれると多くの船舶が入港して活気づきました。昭和34年に重要港湾に指定されるとともに、昭和39年には「周南工業整備特別地域」の指定を受け、塩田跡地を利用した自動車産業を中心とする各種産業が進出し、完成自動車やコンテナ貨物を主として取り扱う工業港として発展してきました。

今後は、臨時部企業のニーズに応えていくため、地域振興の基盤となる港湾整備を目指しています。

やまぐち「港」物語 ―三田尻中関港―

江戸時代、毛利氏が奨励した防長四白（米、紙、蠟、塩）の中でも、三田尻地区は瀬戸内屈指の大塩田を持つ塩の産地でした。三田尻が塩業技術の進歩改善に尽くした功績は目覚ましく、多くの技術が開発・実用化されました。しかし、国内の塩過剰生産によって、昭和35年には防府市内の全ての塩田が廃されました。

工業化の面では、昭和初期に瀬戸内沿岸の工業開発に刺激され、三田尻地区への工場誘致運動が活発化し、福島絹糸（株）や鐘淵紡績（株）の工場が設立されました。また戦後は広大な塩田跡地へ各種産業が進出し、防府の海岸線は工場地帯として発展していきました。



↑賑わう中関港／毛利氏の塩田政策など、製塩と中関港はともに繁栄しました。手前は大浜二・三・四樹塩田と中関新地の町並み



↑戦前の三田尻港／福島人絹（株）や鐘淵紡績（株）の両工場建設以来、近代工業地帯として三田尻港は急速に発展しました。

写真／「ふるさとの思い出 写真集 明治・大正・昭和 防府」より転載

三田尻中関港整備事業の紹介 ―三田尻地区防波堤整備事業―

三田尻地区

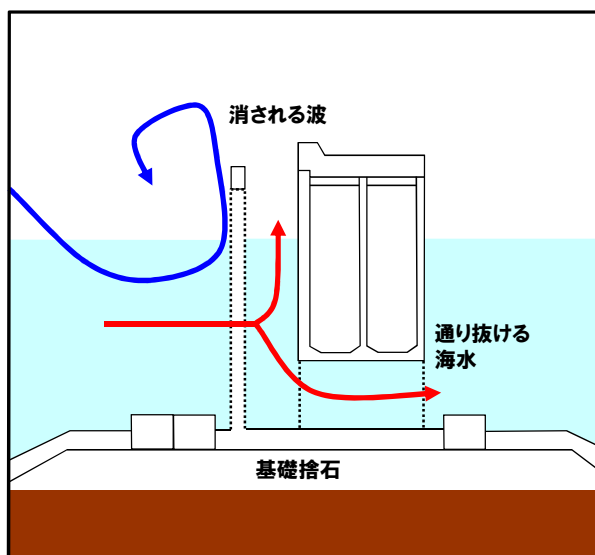


三田尻地区では、砂・砂利、化学薬品、砂糖などの貨物が取り扱われています。港内の静穏度を確保し、荷役作業の効率性を高めるとともに、航行船舶の安全性を確保することを目的とした防波堤の整備をしました。また、台風時の高潮・波浪による港湾施設の防護効果並びに背後地への浸水被害を軽減する機能も兼ねています。

なお、閉鎖性の高い港の形状を考慮し、本防波堤は海水交換性に優れた下部透過式の構造を採用しています。

下部透過式防波堤

下部に海水の通り道を設けて、海水の交換ができる下部透過式防波堤を設置しています。この防波堤の外側は波の反射を低減する目的で柵のような造りの縦スリット直立消波構造になっており、航行船舶の安全にも配慮しています。



台風からみなとを守る防波堤



山口県各地に大きな被害をもたらした平成16年の台風18号。台風による高波や高潮からみなとを守るために防波堤を整備しています。



―地域経済を支える企業が立地する中関地区―

中関地区



中関地区は自動車関連産業を中心とした企業が立地し、活発な港湾活動が行われています。水深12m岸壁は完成自動車の輸出に利用されています。水深7.5m岸壁では主にコンテナ貨物を取り扱っています。

完成自動車輸出量上位港(2021年)

順位	港湾名	輸出量 (万トン)	シェア
1	名古屋	2,046	33%
2	横浜	1,005	16%
3	三河	786	13%
4	博多	414	7%
5	広島	350	6%
6	荏田	236	4%
7	三田尻中関	218	4%
8	神戸	216	4%
9	茨城	191	3%
10	川崎	139	2%



自動車運搬船による完成自動車の輸出

出典: 港湾統計

中関コンテナターミナル

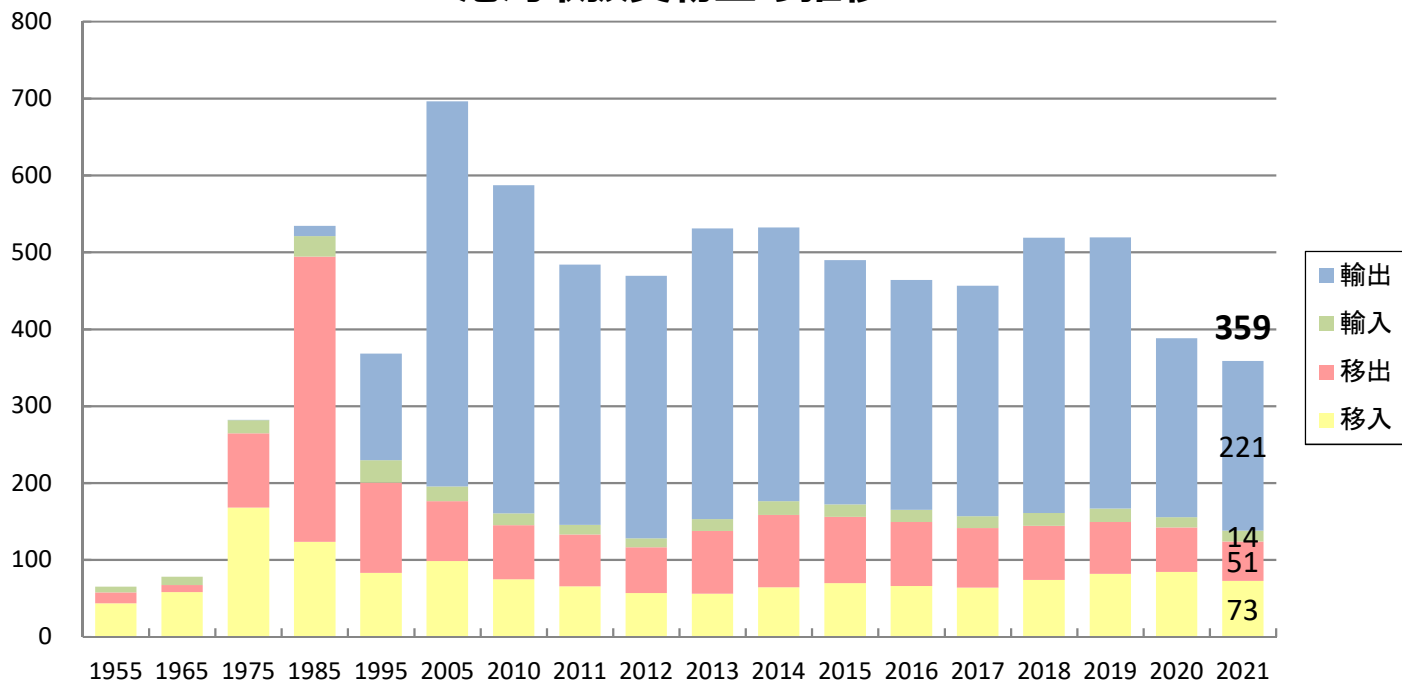
世界の海運ではコンテナ輸送が中心となっており、コンテナ貨物量は年々増加しています。中関地区においても、コンテナ輸送に対応し、スムーズな荷役を行うためにガントリークレーンが平成12年度に1基設置され、平成30年度に2基目が設置されました。



数字でみるみなと - 三田尻中関港 -

(万トン)

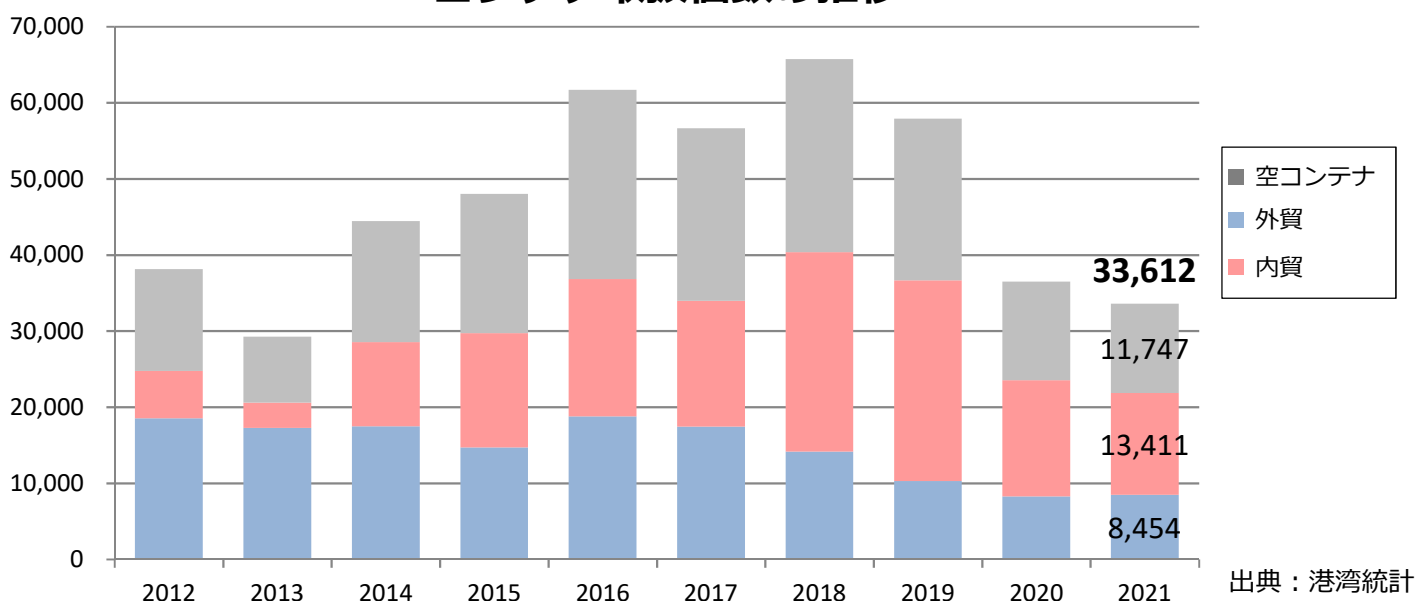
港湾取扱貨物量の推移



出典：港湾統計

(TEU)

コンテナ取扱個数の推移



出典：港湾統計

外内出入別の主要品目取扱貨物量(2021年)

